慶應志木会会報

慶應志木会（慶應義塾志木高等学校同窓会）

2009 ● vol. 29

先日まで、福岡で開催されていた、慶應義塾創立150年記念「未来を開く福澤諭吉展」の入口に設置されていた福澤先生の座像は先の東京での展示会でも入口のすぐそばに設置され展示会のシンボルでした。この座像は普段は志木高の斜路を上がった正面に安置されていますが今は展示会の為に出張しています。

この座像は福澤先生の生前に彫刻家・大熊氏広が制作したものですが、ご自身が、これが人目に触れることを嫌い、隠してしまったと言われています。そのため太平洋戦争の際の金属供出もまぬがれたようです。

志木高へは現在の校舎ができた翌年の昭和44年６月21日に安置され除幕披露の式典が行われました。それ以前は福澤先生の像や肖像画の類は志木高にはありませんでしたが、福澤家のご好意により安置されることになったそうです。式典には福澤範一郎御夫妻も列席されました。

写真は安置された当時の座像と除幕披露の式典で挨拶をする故和田木松太郎元校長とご来賓

『未来を開く福澤諭吉展』

大阪市立美術館

2009年8月4日—9月6日

http://www.fukuzawa2009.jp/

農高時代？の焼印見つかる

先日校内から農高時代のものと思われる焼印が見つかりました。しかしながら大舘元教諭にお聞きしても記憶にないそうです。誰がいつ、どのようないきさつでデザインされ、作成されたのかご存知の方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡ください。

慶應志木会の皆様へ

慶應義塾志木高等学校長　下村　裕

慶應志木会報第29号のご刊行、誠におめでとうございます。

桜が満開の今春、慶應義塾志木高等学校では、259名の第59期生が学窓を巣立ち、258名の新入生が正門をくぐりました。卒業式には、志木会の鹿野会長はじめ役員の方々、そして卒業後40年を迎えられた第19期生の皆様にご列席いただきました。卒業生も大先輩からの祝福を受けとても嬉しかったことでしょう。また、私の着任直後に設立されました「慶應志木会賞」はいよいよ学校に定着してきた感がありますが、第３回に当たる今年は５件の応募があり、そのすべてに授与いただきました。卒業式のご列席と志木会賞の授与に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。さらに志木会の皆様に御礼申し上げたいことは「慶應志木会奨学基金」です。多田前志木会長の頃より計画され、慶應志木会20周年を機として創設の準備がなされました「慶應志木会奨学基金」は、いよいよ今年度から運用させていただけることとなりました。昨今、経済危機に陥る社会のあおりを受け、学費捻出に困窮する生徒が増えていることを実感する折、「慶應志木会奨学基金」は本校生徒を対象とする大変ありがたい奨学金であり、他の塾内外奨学金制度と併せ５月末のPTA総会で保護者の方々にご紹介いたしました。鹿野会長を初めとする皆様、先輩諸氏のご厚意・ご尽力を深く感謝する次第です。

さて、昨年は慶應義塾創立150年の年に当たりましたが、昨年度本校は開設60年の記念すべき年を迎え、これを記念して５つの記念事業を実行いたしました。これに関しましては、本校のホームページにも公表されておりますので簡単にご報告させていただきます。昨年実施しました記念行事は、「懇談会」と「第105回志木演説会」です。「懇談会」では、現役教職員が大舘清次君を初めとするOB教員７人より志木高創生期の歴史に関する説明を受け、その後質疑応答を交えて懇談いたしました。また「第105回志木演説会」では、いつもと趣向を変え、OB教員である松崎欣一君、後藤邦吉君、龍田正浩君に志木高の歩んできた道のりや当時の志木高生気質等々を語ってくださいました。大先輩の方々から教育者としてご意見を拝聴することができ、どちらも大変有意義な会となりました。内容は、それぞれ「研究紀要」第39号、「ことばと文化」第13号に報告いたしましたが、他の記念記録として、この10年間に亘る本校の彙報等を「研究紀要」第39号に掲載いたしました。また、記念品として、正門の並びに新掲示板を、陽光舎（第二生徒部室棟）外壁に野外時計を設置いたしました。本校の還暦に際し、これらの記念事業が志木高の今後歩むべき道を考える機会となることを期待しております。

もう一つ、本校の人事に関するご報告をさせていただきます。先ず私事で恐縮ですが、学校長を拝命して以来、おかげさまで２年半が過ぎました。学校長の任期は２年間ですが、「続投」という山崎元常任理事のご判断により、昨年10月１日よりもう１期務めさせていただくことになりました。また、今年度より主事が交代いたしました。足立文治前主事がこの３月末まで主事を２期４年間に亘り務めましたが規定により退任し、その後任として本年度より河野文彦君が主事に就任いたしました。皆様にはご報告が遅くなりましたが、足立前主事在任中における志木会の皆様のご理解ご協力を深く感謝しております。また、河野新主事ともどもこれまで同様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、志木会のさらなる発展を心より祈念いたします。

新任主事挨拶

河野　文彦

爽やかな風の心地よい季節がめぐってまいりました。志木高も開設以来六十年の歴史を刻んできました。新学期は、教師も生まれかわる時、若返る瞬間でもあります。希望に満ち溢れる新入生そしてご子息に期待を寄せる保護者の面々に、思わず襟を正されるような心境になることを、毎年のことながら、我々志木高の教師は皆誰もがありがたく受けとめております。同時にこれは、各界で優秀な人材として活躍し貢献してこられた卒業生の方々への尊敬の念にも通じております。現在、志木高が多くの中学生にとって憧れの学校のひとつであることは、志木会の方々のご努力とご協力の賜と感謝しております。

ご存知のとおり、最近の教員室内も大分様子が変わってきました。この度、私に主事を務める機会が与えられたことは、世代の交代が進んできたことを意味しているようです。情報化社会に即した職場環境の構築、ルールの合理化、若く伸びやかな人材の育成、古き良きものの再生、等々において新しい感覚を採り入れ、時代の変化に敏感に対応できるようになってきております。その効果は生徒指導に、特にその精神的なケアが求められる場面においても遺憾なく発揮され、その影響によって、学校の生命線である生徒と教職員との関係はきわめて良好な状態であると言えます。

この「生徒と教職員の絆」こそ、農高以来の志木高伝統のものであることは言うまでもありません。今日に至るまで、我々が共に築き上げてきた信頼関係は途切れることなく維持され続けております。つまり世の中は変わるとも本質は少しも変わることはないのです。

「常に本質をわきまえ、志木高の将来を見据えて日々稽古に勤しむ」という方針で職責を全うしたいと考えております。志木会の皆様には、お会いする度につけていただく稽古と志木高の将来についての共有を楽しみにしていただけましたら幸甚に存じます。

どうか今後とも一層のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

ご　あ　い　さ　つ

慶應志木会　会長　鹿野元章

平素は志木会活動につきなにかと御協力頂きまことに有難うございます。この度は恒例の志木会報が予定通り発行され、関係各位の御尽力に感謝いたします。

近年、学力とスポーツの両面で母校の声価が一層高まっておりますことは、発展を願う者としてご同慶に堪えない次第です。お蔭様で毎年恒例となりました卒業式の志木会賞も今年で三回目の授与をさせていただき、卒業生・保護者はもとより教職員の方々にも喜んでいただいております。

また、多田前会長より引き継ぎました懸案であります「慶應志木会奨学基金」につきましてはお蔭様で志木会会員はもとより、下村校長先生はじめ教職員・PTA有志の方々より御賛同を賜り、平成21年３月現在、2,710万円まで漕ぎ着けることができました。

しかしながら、長期的な基金として必要な3,000万円までもう一息のところですので、会員各位には期間を延長してさらなる協賛をお願い致したく、応募要項を記載させていただきました。

昨年は慶應義塾創立150年に当たり、５高等学校同窓会共同で500万円の寄附をさせて頂き志木会も応分の負担を致しました。御高承の通り記念式典や福沢諭吉展等大きな盛り上がりを見せ、国内外に慶應の名を再認識していただきました。

今後とも志木会は各種の行事や奨学基金を通じ母校の発展と会員相互の親睦を図ってまいります。その為には年会費が原資となりますので、納入率の向上につき御協力のほど改めてお願い申し上げます。

末筆ながら志木会会員皆様の一層の御健勝をお祈り申し上げます。

志木会からのお知らせ

鹿野会長再任される

会長他役員の３年の任期が満了し、５月21日開催の幹事総会において鹿野現会長他役員が次期（３年）も継続することが承認されました。

――「慶應志木会奨学基金」報告と継続のお願い――

慶應志木会会長　鹿野元章

慶應志木会は20周年を機して、経済援助を通じて有為な人材の育成と教育の機会均等のため、「**慶應志木会奨学基金**」を設立し、平成19年11月より募金活動を開始しました。お蔭様で志木会会員はもとより、下村校長先生はじめ教職員・PTA有志の方々にも御賛同を賜り、平成21年３月現在、2,710万円まで漕ぎ着けることができました。これにより本年10月から毎年２名の生徒に授業料の半額に相当する奨学金を支給する予定になりました。支給にあたりましては希望者を学校が審査し決定されます。

しかしながら、基金が支給に必要な運用益を得られる充分な金額に達していないため、不足分を基金から取り崩して支給する場合があり、安定して支給を継続できない事態が生じかねません。

このような事態を回避するため、長期的に支給するための基金として必要な3,000万円に達するまで、期間を延長させていただく事になりました。目標額までもう一息のところまで来ておりますので、是非ともご協力を賜わりたく、恐縮ながら心からお願い申し上げる次第でございます。

【募金要項】

慶應志木会奨学基金　募金責任者　山崎嘉正　会計責任者　金森　悟

1. 募金期間　**平成19年11月24日～平成21年９月30日（延長）**
2. 募金目標額　**3,000万円**
3. 募金単位　個人名義　**１口１万円　“２口以上大歓迎”**
   時節柄恐縮ですが、１口以上ご協力賜わりたくお願い申し上げます。
   法人名義　**１口１万円**　出来ましたら５口以上のご協力を望みます。
4. 払込方法　下記銀行、郵便局にて個人・法人共に卒業期・氏名を明記の上お振込をお願い致します。
   口座名義「慶應志木会奨学基金　鹿野元章」（ケイオウシキカイショウガクキキン　シカノモトアキ）

   振込口座一覧
   三井住友銀行　新座志木支店（普通）6891296
   三菱東京UFJ銀行　新座志木支店（普通）1983046
   埼玉りそな銀行　志木支店　（普通）4145297
   ゆうちょ銀行　10340-38162591
5. 領収書及び個人寄付に対する減免措置について
   払い込み票が領収書控えとなりますので大切に保管してください。
   また、**募金期間平成21年９月30日までの入金に対しては、平成21年分として平成22年２月上旬に慶應義塾基金室から領収書並びに所得税、法人税の寄付金控除証明書が送付されます。**
6. 振込手数料　まことに恐縮ですが、**お振込み手数料**は各自ご負担下さい。
7. 収支報告　記念事業終了後、報告させて頂きます。
8. 問い合わせ先　慶應志木会事務局　竹内（学校内）
   Tel　048-471-1959
   E-mail　info@keio-shikikai.com
   奨学金担当　山崎嘉正（志木会事務局長26期）
   E-mail　kametono@pop.kcv-net.ne.jp
   ウェブサイトでも情報を提供しております。
   http://www.keio-shikikai.com/

募金期間終了後、三田評論の寄付金申込者芳名覧に記載させて頂きますが、匿名をご希望の方は事務局までご一報ください。

なお、記載方法はお名前のみとさせて頂きます。

会費納入のお願い

慶慶應志木会
会長　鹿野　元章

慶應志木会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年４月より第５期がスタートし、今後の活動と発展のために維持会費納入のお願いをしておりますが、初年度は納入率７パーセントと極めて低調な状況となっております。

維持会費につきましては発足時より５年を一区切りとし年会費２千円を一括して５年分１万円のご協力をお願いしております。

厳しい経済情勢ではありますが、このままでは慶應志木会の運営に大きな支障がでることも予想されますので、何卒ご協力賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

納入方法につきましては、お手数ですが同封の振込用紙をご使用の上、お近くの郵便局よりご送金下さいますようお願い申し上げます。

記

振込金額　10,000円（５年分）
取扱機関　全国の郵便局
払込期日　早期振込にご協力下さい

＜問合せ先＞
＊各期学年幹事
＊財　務　担　当　増山治一郎　17期　TEL045-450-7250（共栄企業）
＊志木会事務局　竹内　TEL048-471-1959（志木高内）

以　上

＜参考資料＞残高推移予想（単位千円）

	H21	H22	H23	H24	H25
現在残高	11,441		総会準備年	総会開催	次会費徴収
残　　高		5,841	241	-6,059	
必要金額	5,600	5,600	6,300	6,300	
差　　引	5,841	241	-6,059	-12,359	

※会費の納入が無いと H23 年以降、会の活動が出来なくなる。

必要金額の主なもの（単位千円）

• 会報費用	2,500
• 寄付金（収穫祭・卒業式）	600
• 入学・卒業記念品	500
• 会議・事務費用	1,000
• その他	1,000

H23、24は総会準備のための支出有

慶應志木会賞

慶應志木会賞は、クラブおよびその他の活動において、特に功績のあった団体または個人の業績を称え、もって学校生活の向上に資することを目的として平成19年３月の卒業式に初めて贈呈されました。体育、文化、一般の３部門において教員からの推薦をもとに選考委員会で決定しています。

平成20年度は、以下の５グループが表彰され、卒業式当日に鹿野会長より賞状楯と記念品が贈呈されました。

１．軟式野球部（２年連続表彰）３年生９名
　戦　績　第53回全国高等学校軟式野球選手権埼玉大会優勝
　　第53回全国高等学校軟式野球選手権南関東大会出場
　昨年はブロック優勝であったが本年度は単独優勝で、昨年以上の成績を上げた。

２．端艇部　３年生９名、２年生２名
　戦　績　第56回全国高等学校選手権競漕大会（インターハイ）
　　男子シングルスカル　埼玉県代表準々決勝進出（県予選２位）
　　男子舵手付クオドルプル　埼玉県代表　準々決勝進出（県予選２位）
　代表選手以外も出場選手のサポートなどに貢献した。

３．水泳部　西垣文矢君
　戦　績　平成19年度埼玉県学校総合体育大会　400m個人メドレー６位入賞
　　関東高等学校水泳競技大会　400m個人メドレー出場
　　平成20年度埼玉県学校総合体育大会　200m平泳ぎ4位入賞
　　関東高等学校水泳競技大会　200m平泳ぎ出場
　水泳部主将として部員を取りまとめ、後輩の指導にも力を注いだ。

４．器楽部　３年生７名
　　第49回埼玉県吹奏楽コンクール　高等学校Bの部　金賞受賞
　　第14回西関東吹奏楽コンクール　銀賞受賞

５．「日本語各論」授業「原爆被害を伝える活動」グループ
　　嶋根　学君、高岡颯太君、林　宏樹君
　NPO「図書館の学校」主催　図書館を使った調べる学習賞コンクールにおいて、「原爆被害を伝える活動」をテーマに何度も被爆者の集会に足を運び、被爆者集会と若者の距離を縮めるためには何が必要なのかを追求し、レポートをまとめ「優秀賞・活字文化推進賞」を受賞した。

文化部会NOW 第9回

美術部　山内　幾郎　部長

この時期の美術部はわけもわからず入部した１年生が何をやっていいものかわからず、与えられた課題を手探りでこなしています。ほとんどみんな素人で、中には絵を描くこと自体に苦手意識を抱えている生徒もいる始末です。ただでさえその青春時代を芸術にかける意思のある生徒なんてそう多くいるものでもなく、部員の頭数を揃えるためには贅沢を言えるわけもありません。

しかし３年生たちはそんな１年生たちに色々なアドバイスをしています。もちろん彼らも素人からのスタートでしたが、デッサンやアクリル画、部員全員で描く巨大絵画、収穫祭での展示など多くの作品を描く機会の中で自己を追求し、お互いを刺激しあえる活動を経験するうちに曖昧ではあるけれど、自分なりの価値観を会得したように思えます。そんな３年生たちの言葉は私にとっても頼もしいものであります。

美術部は長かった休部期間を抜け出し、同好会から活動を再開して今年で７年目になりますが、ようやくクラブとしての循環を手に入れたような気がします。３年生の言葉を１年生が戸惑いながら受け入れていく、そしてその言葉を理解しようとすることが、活動のモチベーションであり続けて欲しいと思っています。

體育部會NOW 第9回

軟式野球部　松田　恒尚　部長

軟式野球部は、現在新１年生12名を迎えて、２年生７名、３年生12名を合わせて合計31名で活動しています。

ご存知の通り、野球の本場アメリカには軟球はありません。硬球の代わりにゴム製のボールを用いる軟式野球は日本発祥の競技です。日本では、国民体育大会の競技種目にもなっており、学童からシルバー世代まで安全に楽しめる生涯スポーツであるため、競技人口も硬式よりは多いのですが、高校生の世代で見れば圧倒的にマイナーな存在です。埼玉県高等学校野球連盟の平成21年度加盟校は硬式166校、軟式15校と、10分の１にも満たない状態です。

この状況は志木高においても同じで、野球をしようという生徒の大半は硬式に入部し、軟式に入部するのは、中学までの野球経験や体力に自信がない、つまり硬式でやる自信がない生徒達です。

それでも、そういう部員達と、野球を楽しみ、勝つ喜びをも味わおうと日々の練習に汗を流しています。

昨年度の戦績は、春季県大会ベスト４、夏の選手権埼玉大会優勝、秋季県大会（新人戦）ベスト４で、志木会賞も頂くことが出来ました。今後とも精進を重ねてゆくつもりですので、どうぞ宜しく御声援お願い申し上げます。

クラブ成績

クラブ	成績
★体育部会	
硬式野球	H20夏　選手権大会　２回戦　秋　地区予選代表決定戦
	H21春　地区予選代表決定戦
競走部	59回　全国高校駅伝競走大会埼玉県大会　２時間21分18秒　26位
	76回　埼玉県駅伝競走大会　２時間15分01秒　15位　ともに志木高新記録
卓球部	関東大会兼インターハイ予選会　男子団体（櫻庭、石井、金子、笹井、髙橋）、西部地区ベスト12県大会出場
	同　男子シングルス　櫻庭、丹陽　県大会２回戦出場
蹴球部	全国大会予選ベスト４
庭球部	西部地区大会　シングルス　高取９位　廣川16位　澤木17位　程塚24位　山名29位　水野31位
	國井39位　以上県大会出場
	ダブルス　根岸・高取８位　廣川・澤木13位　大段・森田11位
	山名・程塚17位　以上県大会出場
	埼玉県大会（個人戦）　シングルス　ベスト32　高取　ベスト64　廣川　澤木
	ダブルス　ベスト16　廣川・澤木　根岸・高取
	（団体戦）　廣川・澤木・根岸・程塚・高取　ベスト8
	シングルス高取、ダブルス廣川・澤木、根岸・高取ペアー及び団体戦は埼玉県インターハイ予選に出場
端艇部	新人戦　舵手付きクォドルプル　優勝　ダブルスカル　準優勝
	関東大会　舵手付クォドルプル　準優勝　全国大会　舵手付きクォドルプル　10位
	お花見レガッタ　舵手付きクォドルプル　優勝　早慶レガッタ　舵手付きクォドルプル　優勝
	関東予選　舵手付きクォドルプル　準優勝　ダブルスカル　３位
柔道部	H20全国高校柔道大会埼玉県予選会（インターハイ予選）個人１名出場
	関東高等学校柔道大会予選　団体戦出場
	慶早高校対抗柔道戦　優勝
	慶應杯争奪柔道大会　団体３位
	H21春季西部地区高校柔道大会出場　個人81kg級準優勝
バレーボール部	H21西部支部春季高等学校バレーボール大会
	志木２対川越西０　志木２対大井０　志木２対秀明０　志木２対川越東０　優勝
	関東高等学校男子バレーボール大会埼玉県予選会　志木０対越谷南２
ホッケー部	インターハイ兼関東大会１次予選会　３位　同　２次予選会　３位
	第21回東日本ホッケー大会　SUMMER TROPHY 出場
	高校ホッケー新人大会兼国体予選会　３位
バスケット部	H21１月　新人戦　県ベスト16
弓術部	H20西部地区大会　個人　林　康弘君　６位入賞　塾内三巴戦　優勝
ゴルフ部	H20関東高等学校ゴルフ選手権大会（団体・個人）埼玉県大会出場
	H20埼玉県高等学校ゴルフ選手権秋季大会・関東高等学校ゴルフ選手権冬季大会・全国大会予選出場
剣道部	H20西部地区高等学校剣道大会（個人）　村上（敗者復活戦・県大会出場権獲得）
	埼玉県剣道大会（個人）　村上　二回戦敗退
	インターハイ予選（個人）　関　三回戦敗退
	第53回五大学付属剣道大会　第５位（11校中）５位決定代表戦　村上・銅（勝）
	埼玉県私学大会　ベスト８　埼玉県新人大会　三回戦敗退
	H21関東大会西部地区予選（個人）　山崎剛史　準決勝敗退（120名中ベスト３）
	同　奥村怜生（120名中ベスト32）
	関東大会　県予選（個人）　山崎剛史（128名中ベスト16）　奥村怜生（１回戦敗退）
	関東大会西部地区予選（団体）　ベスト８
スキー部	インターハイ　県予選　鈴木竜士　GS21位　金　東周　SL16位　鈴木竜士18位　辻　宜克　23位
	SAJB級群馬県選手権　金　東周　GS80位　鈴木竜士　84位　鈴木竜士　SL67位
	SAJB級関東高等学校スキー大会　金　東周　SL55位　鈴木竜士　SL76位　辻　宜克　SL100位
ソフトテニス	西部支部大会　個人　ベスト16　県私学大会　個人　ベスト16
水泳部	H20　関東大会　200m平泳ぎ　西垣出場
	学校総合体育大会　200m平泳ぎ　西垣　４位入賞
	団体予選　200m平泳ぎ　西垣　５位入勝　200m個人メドレー　遠藤14位
	新人大会　200m平泳ぎ　濱田　10位
	400m個人メドレー　西垣10位　100m平泳ぎ　西垣11位
	200mメドレーリレー　小林・西垣・遠藤・長井　14位
	200mリレー　山口・脇本・山本・森　12位
軟式野球部	第53回全国高等学校軟式野球選手権埼玉大会　優勝
	第53回全国高等学校軟式野球選手権南関東大会出場
空手同好会	H20　関東大会県予選会（個人種目）出場　インターハイ県予選会（個人種目）出場
	県高校新人大会（個人種目）出場　春季港区空手道大会　出場
	秋季港区空手道大会　個人組手　３位　同　個人形　３位
	早慶高校空手定期戦　（塾内高校合同チーム）勝利
★文化部会	
器楽部	第49回埼玉県吹奏楽コンクール　高等学校Ｂの部　金賞受賞
	第14回西関東吹奏楽コンクール　銀賞受賞

★ 志木高教職員の動向

退職…　非常勤講師　二瓶　美枝君（外国語科）　長嶋　恵理君（外国語科）
越前貴美子君（イタリア語）

新任…　非常勤講師　山野井俊介君（数学科）　朝日奈佳尉君（イタリア語）
事　務　吉田　敬君　他４名

訃報…　徳永　隆男君（元音楽科教諭）　2009年２月14日　ご逝去
松本　三郎君（元９代校長）　2009年３月５日　ご逝去

同期会＆OB会だより

1期　四季会

昨年の９月20日　２期の方々と喜寿の祝をかねて「四季会」を行いました。

今回は浜松より金原君が参加してくれました。何分にも逢うのが卒業以来という人もおり、再会を大いに喜びあいました。

会場は同期の伊藤君の店、新橋の車屋さん。

超一流の料理を食べながら、まづ「おい元気か!!」の声からはじまり、時の経つのも忘れて語り合い、酒を酌み交わし、楽しい一日でした。

最後は恒例の応援指導部OBの藤井君のリードによる「若き血」を歌い、再会を楽しみに散会いたしました。

いつもの事ながら、場所を提供していただいている伊藤君、そして幹事の大谷君、薮田君、松本君に感謝する次第です。

龍野和久　記

9期

私達９期は1959年３月に志木高発足第一回生として卒業して以来、今年で50周年を迎えます。卒業以来不定期ながら有志による同期会が行われておりましたが、2003年に復活同期総会を開催し、以後毎年定期的に懇親会、ゴルフ会などを開催して参りました。このところ６月第三土曜日、大岡山「利久」が定例会となっておりましたが、今年は50周年記念として、是非秋の収穫祭の時期に志木高でという希望があり現在その方向で準備を進めております。会員には追って詳細をご連絡致しますが、この記念すべき会にぜひご参加いただき、旧交を温めて戴ければ幸いです。

五老輝彦　記

11期　遊志会

11期（遊志会）は、平成20年度も①浜離宮散策と汐留寄席を楽しむ会（９月27日）、②第75回ゴルフ大会（10月22日）、③写真の撮り方－基本から上級まで（11月27日）、④第４回ミュージックフェスティバル（２月７日）、⑤歌舞伎観賞と中村時蔵丈との懇親会（２月18日）、⑥第76回ゴルフ大会（３月25日）、⑦平成20年度総会（４月９日）のイベントを開催しました。今回で４回目となるミュージックフェスティバルには約50名が参加し、ゴルフ大会とともに遊志会の恒例行事となりまた。お孫さんのピアノ演奏を皮切りに、芸達者なメンバーによるピアノ、フルート、ハーモニカ、合唱・独唱、ハワイアンの演奏など、和気藹々のコンサートになりました。また、４月９日に開催した総会（写真参照）には、恩師の大舘元教諭・高山元教諭をお迎えし、出席者がお互いに旧交を温め和やかな雰囲気の会となりました。

平成21年度も新幹事のもと趣向を凝らしたイベント（添付参照）を開催のうえ、会員相互の親睦をさらに深めていきたいと思います。

・平成21年度計画

６月24日（木）　鎌倉散策の会
８月１日（土）　ハワイアンとフラの夕べ
10月２日（金）　第77回　ゴルフ会
11月４日（水）　高尾山・秋の健康 ハイキング
３月６日（土）　第５回ミュージックフェスティバル
３月下旬予定　第78回　ゴルフ会
４月８日（木）　平成21年度総会

馬渕祥宏　記

12期

我々、12期の仲間は第二の人生を楽しむ年代に入り、有意義な日々を過ごしております。志木校在学時代のクラス編成が選択科目の美術と音楽がベースになっていた関係で卒業後も両グループ間の交流が比較的希薄であったことに気が付き、数年前より同期幹事が中心になり、口コミで両グループ交流の機会を設定しております。以前、志木会のメールマガジンでもお知らせしましたが春秋、慶早戦初日の土曜日の試合観戦と試合後の同期会の開催もこの一環です。近年は早稲田優位な為、試合観戦が億劫な人は夜の同期会のみ参加する傾向があります。今後も継続して開催しますので参加希望の方は詳細を同期幹事に問い合わせ下さい。

又、志木会の年次行事の一つである‘歩こう会’も同期の仲間だけを対象にしたものを別途、不定期で企画・実施しております。仲間が興味を引きそうな東京や近県の史跡、旧跡や博物館を訪ねながら日帰りのウオーキングを楽しむ会ですが、昨年は霞ヶ浦北岸の遺跡巡り（写真―12期同期のプロ写真家　金井三喜雄君撮影）、今年は八王子や町田市内、手賀沼周辺の遺跡見学や自然観察を楽しみました。‘歩こう会’の後は、志木校の音楽ご担当の新保元教諭のご子息の経営する‘西荻窪しんぼ’（TEL03-5370-1668）にて愉快な同期会を開くこともあります。同期会での話題で必ず登場するのが担任の教師のお人柄や数学の教師の授業内容、それと当時、５万坪を誇った広大な校地での思い出などです。

今秋は我々の志木校入学50周年を記念して母校周辺にある平林寺と水子貝塚を訪ね、その後母校を訪問、志木市内で同期会の開催を企画しております。高校卒業後、母校を一度も訪れたことが無い仲間もいることと思います。この機会を利用して是非、今年は母校を訪問しましょう。一人でも多くの同期の仲間の参加を期待しております。同期で志木会にeメールアドレスを登録している方が少ないので同期全員規模のご案内が出来ません。この会報を通じてお知らせしますので参加希望の方は同期幹事に問い合わせ下さい。

岡田幸次郎　記

15期　亦楽会（15期）第30回記念大会盛会でした

亦楽会の第30回記念大会が11月15日（土）帝国ホテル内の東京三田倶楽部で盛大に催されました。今回は亦楽会発足当時のクラス幹事、A組平野井君、B組小野君、C組龍田君（総幹事）、D組大関君、E組松本君に再登場願ったおかげもあり久しぶりに60名を越す参加者で賑わいました。乾杯の挨拶をお願いした10歳年上の護徒稚（ごっち）こと後藤元教諭が「ショパンの別れの曲」をピアノで弾きたいと毎日1時間練習に励んでいる話、ジムで筋トレをしているなどの話は定年前後世代の我々にとって大いなる刺激となりました。60年代後半にヒットした「さよならは云わないで」、「朝焼けの中に」、「別れ」などでおなじみの慶應出身のファークグループ「ザ．モダンフォーク．フェローズ」のアトラクションも楽しく、懐かしい一時でした。今年の幹事はA組加藤（義）君、B組石川（郁）君、C組小林（典）君、D組杉村君（総幹事）、E組高野君です。

第31回大会は11月27日（金）18時より慶應義塾大学三田校舎、北新館１階にあります、パレスホテル運営の慶應義塾「ファカルティクラブ」での開催です。今年のアトラクションは応援指導部・チァーリーダーにお願いしているそうです。亦楽会の皆様多数の参加をお待ちしております。

倉田伸二　記

16期　志世会

私達の同期会である「志世会」は毎年９月の第２土曜日に万世本店８階で開催することが定例化しております。昨年は３連休の初日という逆風の中での開催となり幹事間で日程変更も検討しましたが、結局予定通りとしたところ約30名もの同期生が集まり、おおいに交歓の実を挙げることができました。今年の土曜は通常通りですので、昨年家族サービスに励まれた方も、是非ご出席下さる様お願い致します。又、有志による１月24日の第１回ゴルフ会に続き第２回が７月25日に予定されている他、定例懇談会（飲み会）も各月の第４木曜日に万世・B1「呉越同舟」で定期的に開かれる等、同期生相互の懇親の機会が急速に増加しつつあります。（詳細は志木会メルマガ第60号参照）このことは母校を卒業して40余年、同期の中にも社会の第一線から退く方もチラホラ見掛けるようになった影響もあるかとも思われます。同期諸氏のこれからの第二の人生の充実を図る上で、生活の一部に志木会・志世会行事参加を組み込まれてはと、お奨めする次第です。

涼しげなシャツに昔の友の影

近藤隆夫　記

20期

平成20年９月26～27日に静岡の焼津で宿泊の同期会を幹事　高津君・舟本君・八木君・佐藤和義君で開催しました。26日はゴルフ組と静岡市内の同期安田君の店での会食組に分かれました。安田屋では夜を待ちきれずに宴会がはじまり、そのあとの見学予定を取りやめ大いに盛り上がり、締めに安田君の打ったそばを食べました。その後ホテルに入りゴルフ組と合流、夕食の宴会のあと安田君も加わり、夜遅くまで昔話に花が咲いておりました。ゴルフはゴルフ部窪田晃君の優勝でした。次回は平成23年に還暦を祝って宿泊の同期会を開催する予定です。次回幹事は田中純一君と江原泰彦君です。

平成21年３月６日に東京有楽町の外国人記者クラブで毎年恒例となった同期会を開催しました。初めての顔出しで久しぶりに会う人もいたり、今年も35名の参加で楽しいひと時を過ごしました。来年は卒業40年にあたり志木高卒業式への招待があり、卒業式の日に同期会を開催する予定です。同期のたくさんの参加を期待します。

金子博志　記

23期　志木魔会

23期同期会は「志木魔会」と称し、毎月23日（土日祭日を除く）神田秋葉原の「車力」という21期の先輩が経営する店に適当に集まって、いまだに18歳以下の精神年齢を維持している元気な会です。一度ふらっと寄ってみて下さい。染まるのは簡単！すぐにタイムスリップが出来ます。但し、おバカがうつって病みつきになっても、一切関知いたしません。「車力」：千代田区神田佐久間町２-10　電話　03-3861-6170　秋葉原駅昭和通口改札出て正面三菱東京UFJ銀行の裏側

中村弘司　記

26期

現在のラグビー部の監督は26期の中川龍士君です。その縁もあってこのところ同期の何人かが誘い合って試合観戦しています。

去る４月29日には早稲田本庄との慶早戦では見事17対８で撃破、34年ぶりのベスト４に輝き、その瞬間を目の当たりにすることができました。

また、来る７月３日（金）19：00～　青山ティーファクトリーで第16回の同期会（26会）が開催されます。同期の皆さんでご存じない方是非ご参加下さい。毎回20～30人が集っております。

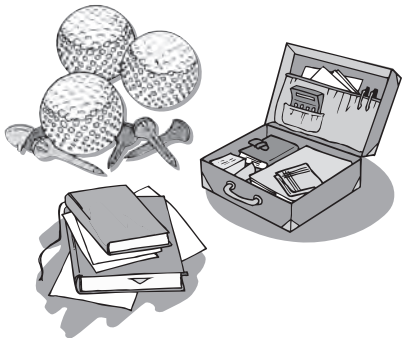
＊青山ティーファクトリー
所在地　〒107-0062　東京都港区南青山２-12-15
南青山２丁目ビルB1
電話／FAX　03-3408-8939
交通　地下鉄銀座線外苑前駅A4出口徒歩２分
地下鉄大江戸線・半蔵門線青山一丁目駅５番出口徒歩５分
店主は同期の清水一（ブッチャー）です。

山田純男　記

ミッド・ライフ・クライシス

～3月24日卒業式に参加して～

19期　石垣幸雄



拙文を書く。式への出席者は50名余り。中にはそれこそ、卒業以来40年ぶりの再会をはたした者も少なくない。こういう機会は我々に生きる力を与えてくれる。懐かしい。

ふり返れば、卒業の年に新校舎となったが、我々の時代はまだ木造教室であり、敷地内は直に「土」があり、野火止の深い林があった。東上線の車内の床も板張りで、油の臭いがした。志木の街も、現在のプチ都市化した姿からは想像もつかない、平屋の個人商店が点在していて、その中を陽の光をあびながら制服を着た我々と、セーラー服姿の女子高生が歩いていた。そんなのどかなセピア色の記憶の全てが、今ではありがたく、いとおしい。

40年と一口にいっても、各人には筆舌につくせないストーリーがあるはずだ。だから、わずか半日間だけの再会だけでは、その全てを見聞はできない。しかし40年間生き抜いた上での再会だから、ダイジェストの対話の中から、お互いの波乱万丈を感じることが出来る。交わす言葉は少なくて十分だった。

この前、アメリカ在の娘に、「おとうさんの今の状態ってサバーティカル・タイムって言うんだよな？」って聞いたら、「う～ん、サバーティカル・タイムって世のため、人のためにつくす（例えば、カンボジアで１年間、井戸を掘り続けるとか）形が前提だから、おとうさんのはミッド・ライフ・クライシスって言うな」と軽くあしらわれた。要は人生の折り返し点で、今までに成しとげられなかった個人的願望を具現化して行く時代のことをいい、人間性回復の上で、ちゃんと市民権のあるライフスタイルのことらしい。

ある者は、突然、絵を描きはじめる。狂ったようにゴルフをする者もある。ある者は田舎へひっこみ、農業にいそしむ。ある者は若い頃手がでなかったスポーツカーを購入し、また、ある者は行ける限りの旅行にでかけ始める。中には自費出版で本を出す者もでてくる。大学に入り直し勉学に勤しむ者も現れる等々。

無論、我々の多くの仲間は現役でバリバリ働いている。しかしどう考えてみても、片足は第二の人生に足を踏み入れている。願わくば、こうして再会出来たみんなが各人のミッド・ライフ・クライシスを、存分に楽しみ、それを満たしていってほしいと思う。

平成20年度　卒業後40年招待　第19期生　慶應義塾志木高等学校　2009年3月24日

７名の恩師を加えた二次会も、あっという間に時が過ぎていった。笑顔の絶えない盛会となった。会の中で全員の総意で、また２年後、還暦を記念して、もっと多くの同期を集めて「宴」を開こうと決まった。その時に堂々と（or赤面しつつ）各人のミッド・ライフ・クライシスを発表し合いたいと思う。きっと面白いに違いない。全員の健康を祈る。

Interview

「武田庄三郎元教諭のインタビューに成功しました！」

本草稿は、昨年11月15日に開催された第30回亦楽会に向けて
武田庄三郎元教諭からいただいた亦楽会の皆さんへのメッセージです。

（聞き手：2008年11月6日　15期B組　小野 直）

戦争から慶應志木高の元教諭になられるまで

第二次世界大戦では学業半ばにして軍隊に入られ中国に行かれたそうで、沖縄が陥落したのちの本土死守のために７月はじめに博多へ戻り、熊本の山中で体制を整え８月16日に鹿児島・宮崎の県境へ出る予定でした。その時元教諭は、中隊長で、任命された時「自分の頭の中は、一般市民をどう守るか、又兵隊をなるべく死なせないためには、どうすればいいのかの思いしかなかった。砲も４門あるべき所が１門しかなく兵隊の人数のみ正規の倍ほど居る。自分はどう死のうかと考えていました。そして、米軍の上陸を喰い止めるため、自分は夜襲をかけ一人でも多くの敵兵を殺そうと真剣に考えていました」と思いだされていました。

終戦後　元教諭は中学の時の校長の紹介で、神戸の甲南女子高に国語の教師として就職しました。しかし東京で勉強がしたくて東京の都立大森高校に再就職、そこに４年いましたが、学校から提供された宿舎がおぞましく不衛生な荒屋で、とても奥さん子供を東京に呼べなかったそうです。そして校長の引き留めにも耳を貸さず、大森高校を辞め、故郷に帰り４年間の貧乏暮らしが始まったとの事です。それでも東京に来たりしては、東大の図書室に通いながら、小説を書かれていたそうです。その時の小説の中に、もう少し長ければ・・との選考委員の評を漏れ聞いた作品もありましたが、それが芥川賞の候補と言ってよいかどうかはわかりませんとの事です。しかし、元教諭が仰るに「これは、あまり良いできではなかったので恥ずかしい」との事でした。

そのころ東京の文学仲間で、故野口福次さん（志木高の英語元教諭）と知り合いになった。野口さんから「慶應志木高で国語の教諭を探しています。是非、校長に会って見られてはどうですか？」と誘われたそうです。しかし、武田元教諭は経済的に困窮しており、ろくに着るものも無く迷っていたら野口さんが「君には、あの立派なオーバーコートがあるではないか？」と言われたそうで、背中にたばこの火で穴をあけられたボロの背広をオーバーの下に隠し着て、当時の志木高の吉田校長に面接させて貰ったそうです。その吉田校長より、早速来てほしいと言われ志木高に就職が決まったとの事です。

慶應志木高から大学教授に

昭和32年から、１年間は当時の規定では非常勤講師、翌年から専任で昭和45年までの10数年間慶應志木高におられ、その後、源氏物語では、日本の第一人者であられる秋山虔（けん）さんからのお誘いがあり富山大学教授に転任されました。しかし、同時に、東京農工大からも話があり、一時は、富山と東京の二つの大学に二股をかけ、両方で教鞭をとられていたそうです。富山大学を昭和50年でおやめになって東京農工大には定年の60歳までいたそうです。その後、立正大学の教授を75歳まで在任され、国文学科と大学院で「近代文学」の担当教授として働かれ、その後、鹿島神宮の清真学園女子短期大学（英文科のみの学校）で、83歳まで教壇に立ち日本文学一般と国語一般とを担当されたそうです。志木高を去られる時に、今でも気になっているのが、ご自分の私物を志木高の図書館に預けたままにして去ってしまったことだそうです。その事が今でも、気がかりでならないなぁと仰っておられました。

武田元教諭インタビュー「第30回 亦楽会 出席者の皆様へ」

１．最近の心境について：

この年（満92歳）になっても20代の学生時代の時から自分は変わらない。まぁーそれだけ、自分は未熟なのかも知れませんねぇ。あの当時　私の考えていた事は知性的ではないもの例えば文学或いは芸術等と、それをとらえる時の理知的な力との兼ね合いを、どう考えたら良いかといったことでした。それを、ずっーと、軍隊に行っている間も考えて、そんなところに今も、問題を感じながらやっている様な気がします。現象学というのがありますが、そんなものにも一生懸命とりつかれてやってきたことも

（11月６日、北浦和のご自宅を訪問した際撮影）

あります。この問題は、文学、芸術の問題だけでなく歴史、宗教、社会の問題といった全てに係わりあうような気がするのです。

それがなかなか解決できないまま　今も、暮らしています。あとは、まぁ、作品でも少し書いてみたいなぁーという気持ちはありますけど・・。

非常に影響を受けましたのは、現象学と、それと哲学者シェリングが書いた「人間的自由の本質」ですが、この本は感銘を受けて読みました。

実は、私の家の隣に長男が居りまして、彼は皆さんと同世代ですが、彼は医者になり、学校に残って教授をやっています。教授だと65歳まで働けるそうです。ここでは、私と妻の二人と娘と暮らしています。娘はドイツ学術交流会に勤めています。彼女が我々の世話をしてくれるものですから・・、そんなように暮らしています。やはり年がいくつになっても若い時とあまり変わらないものですねぇ。その若さを大事にしていくことが大事なのではないでしょうかねぇ。余り年を取ったからとは思わないで、若い時と一緒だと思われてやっていかれることが大事ではないでしょうか。自分は93歳まで、変わっていませんが、一方には、国家というものもあって、そこでやらなくてはいけないという気持ちもありました。と言っても自分が大事だという気持ちがあって自分がやりたいものもあって、その二つが戦争時代は、中々上手くいかなかったのですが、帰ってきてから、無理してでも自分のやりたいことをもっと完成させようじゃないかという気持ちで暮らしてきました。今もあまり変わっていませんね。

２．元教諭の志木高の思い出：

皆様が（志木高の時）10何歳かになって立派な人達だと思って暮らしてきました。ただ　まぁー勝手放題のことする時もあったにしても、それは、それとしてねぇ、まぁ一般的には、ちゃんとした人達だなぁーという気持ちでやってきましたよ。

３．亦楽会の皆様へのアドバイス：

まだ何かをやられたら良いですよ！　若いのですから。長男を見て思うのですが、まだまだ、貴方達は若いですよ。まだ、何かを、やらなくちゃという気持ちがしますねぇ。今回の亦楽会には、折角のお招きでしたが、足が弱ってきてしまい、まぁ勝手しましたが、どうぞお元気で、いつまでもしっかりやって頂きたいと思いますねぇ。

（最後に100歳に向けて頑張って下さいとの質問に対し）

やぁー私も何とか一年でも長生きしたいと思っています。でも、いつまでもと言っても自分はよい年なのでねぇ、明日は判りませんがねぇ、だけどまぁ気分としては、一日でも長く生きて、やっていきたいと思います。（奥様の一枝さんに向って）まぁー二人とも病気をしたので、病気したもの同志でいたわり合って暮らしています。

以　上

武田庄三郎氏プロフィール

1916年（大正５年）３月10日生まれ、満93才、国文学者、又小説の実作家でもある。元教諭は神戸市ご出身で、外国語に堪能であられ外国語の文献に精通せられ日本でも数少ない文学理論の研究家としてすぐれた業績を挙げられておられます。学生時代は、柔道では相当な猛者であられたそうで、小説の実作者でもあられ文武両道の元教諭です。元教諭は、武田信玄の弟の武田信実（のぶざね、別名:河窪信実）の末裔だそうで、その子供、実春（さねはる）は、徳川家康の計らいもあって和歌山に逃げ、「落武者」になったとのことだそうです。元教諭は、それに触れられて「自分は、そのような家系でして自分の性格にも、落武者のようなところがあるのでしょう」と言われていました。立正大学を定年退職された時の武田元教諭を送ると題する小文に「武田先生は、今時珍しい謙虚な方で、その人柄を反映してか、先生の書かれるものは手堅いものばかりで、これ見よがしのはったりなどはいささかも見当たらない」と評されていました。（参考文献：立正大学「武田庄三郎先生を送る」竹下数馬著）

現在は、北浦和駅から徒歩15分位の所にある北浦和小学校の正門の前の一軒家にお住まいです。家には、87歳の奥様の一枝（かずえ）さん（大正10年生、姫路の相生出身）と娘さん（日独交流会に勤務）のお二人で静かなお暮しを送られています。ご長男と二男がおられますが、ご長男は、昭和21年生まれで、我々と同期です。現在、慈恵医大の教授であられるそうで、元教諭と同じ建屋（仕切りで区切り）のお隣の家にお住まいとの事でした。

元教諭のおすすめの本は、シェリング著「人間的自由の本質」とランケ著「世界史概観―近世史の諸時代」だそうです。両方とも出版が岩波文庫ですが、手に入らない場合は、元教諭のお宅に数冊あるので前もって言って頂ければ、差し上げますとのことです。

Interview

生徒会収穫祭実行委員会からのお知らせ

今年の収穫祭は……

皆さんこんにちは。平成21年度収穫祭実行委員長の加賀屋です。今回僕達が掲げるテーマは「For U-Style」に決定しました。

For U-Styleは僕達実行委員が考えた造語で、「お客さんに俺達のstyleを見てもらおう！」という意味が含まれています。

収穫祭は来校してくださるお客さんがいて初めて成り立ちます。ですから、お客さんに楽しんでいただくということは収穫祭を作り上げていく中で常に意識しなければいけません。しかし、「お客さんのため…」と意識しすぎてしまうと自分たちのやりたいこと、自分たちの普段やっていることが崩れてしまうかもしれません。そこで、「お客さんのために何かを作ろう！」ではなく「自分たちの作り上げたものをお客さんにみてもらおう！自分たちのstyleを感じてもらおう！」という気持ちで収穫祭に臨んでいこうという意味を込めてこのテーマに決めました。

また、今年は「全校生徒で作り上げる」ということも目標に設定しました。

新しくパソコンパートなるものを発足し、また各教室を回って展示団体についての説明会を開くなど１、２年生も積極的に参加できるような環境作りや全校生徒で行う新しい企画を考えるなど年に1度しかない収穫祭を全員で作り上げられるように努力しています。

新たな伝統が僕達の代から生まれればと思います。

皆さんも是非楽しみにしていて下さい。そして当日ぜひご来場下さり、感動していただければ幸いです。当日に向け、これからさらに努力していきますので、今年も収穫祭の応援どうぞよろしくお願い致します。

実行委員長　加賀屋隆介

収穫祭のパンフを探しています。

第１回から第17回（1948-1964）までのものと、第26回（1973）のパンフをお持ちの方がいらっしゃいましたら、お知らせください。実はこの期間のものが学校に一冊もありません。大切な記録として是非残しておきたいと考えております。慶應志木会事務局までご連絡いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2009年度収穫祭担当教員　速水淳子

ホームカミングデイ

慶應志木会では卒業25周年の会員を収穫祭当日母校にご招待しています。今年は59年卒の34期生を10月31日（土曜日）12時から、職員室の真上にある会議室にご招待いたします。おつまみと飲み物をご用意していますのでお気軽に参加して下さい。当日は慶應志木会を構成する会員組織の一つである教職員のOB会「志高会」も招待され懐かしい恩師に再会することも出来ます。在学当時は若くて鬼のようであった教職員が、すっかり好々爺になり教え子に会えることを本当に喜んで下さいます。今年で４回目となるこの企画は「なかなか同期会組織を立ち上げる事が出来なかったが、ホームカミングデイをきっかけに仲間が集うようになり、同期会が動き出しました」と喜んで頂いている優れものの企画です。（自画自賛!!）本年度から新たに「シルバーカミングデイ」と銘打ち、卒業50周年の超OBの先輩も参加して頂くようになりました。父親のような世代の先輩にも会えますヨ！　人生相談や仕事の面の相談でも先輩は利用しなきゃ！

志木高・志木会行事日程

	志木会		志木高等学校	
	平成19年度	平成20年度	平成20年度	
4月			4/6	入学式
			4/16	定期健康診断
5月	5/10 志木高自然観察会 5/24 枇杷の会 旧古河庭園 5/29 5高合同懇親会	5/16 志木高自然観察会 5/21 幹事総会	5/7・5/8	クラスマッチ
			5/18～5/20	1年総合学習研修旅行（箱根）
6月	会報発行 6/4 ゴルフコンペ 若洲ゴルフリンクス	会報発行 6/28 枇杷の会 （明治神宮御苑）	6/22～6/26	第1回定期試験
7月	7/5 JKカップ	7/4 JKカップ	7/17	第106回志木演説会
			7/21～	夏期休業
8月				
9月	9/20 志木高自然観察会 （台風接近の為中止） 9/27 枇杷の会（柴又界隈）	9/19 志木高自然観察会	～9/4	夏期休業
10月	10/25・26 収穫祭 10/25 ホームカミングデイ （33期）	10/31・11/1 収穫祭 10/31 ホームカミングデイ （34期・9期）	10/1	運動会
			10/2	運動会予備日
			10/13～16	2年研修旅行（南三陸）
			10/12～16	3年見学旅行（九州）
			10/31	収穫祭
11月	11/22 テニス大会 （志木高） 11/29 枇杷の会 浅草（三の酉）	11/21 テニス大会 （志木高） 枇杷の会	11/1	収穫祭
			11/7	学校説明会
			11/16～20	第2回定期試験
12月			12/3	マラソン大会
			12/4	マラソン大会（予備日）
			12/18	第107回志木演説会
			12/18～	冬期休業
1月			～1/7	冬期休業
				自己推薦入試
			1/12～1/15	第3回定期試験（3年）
2月	2/27 幹事新年会	枇杷の会		一般・帰国入試
				第3回定期試験（1・2年）
3月	3/7 枇杷の会（百草園） 3/24 卒業式 卒業40周年（19期生）	3/24 卒業式 卒業40周年（20期生）	3/24	卒業式（10：00～）

※志木高校内自然観察会は宮橋教諭（理科）を中心に近隣者を対象に開催されます。
（卒業生10名様受付）

行事宣伝

慶應志木会の行事は会員の親睦を図る目的で様々な活動をしています。文化的活動の代表格は「枇杷の会」と称し、当時国語科の教員であった本井 英さんを師として俳句を楽しむ会があります。四季折々吟行に出掛け、帰りに少しお酒も楽しんでいる。慶應志木会の活動としては一番長寿の会です。また、体育会的活動では、昨年から庭球部のご協力で、テニスコートを開放して頂き、汗を流した後バーベキューを楽しむという、大変健康的な会もございます。「ゴルフ会」もあれば現在は小休止をしていますが「歩こう会」や「麻雀の会」もあります。何年かに一度しか開催できませんが「東京ドームで野球をする会」や「さいたまスタジアムでソッカーをする会」なんて企画もあります。皆様からのご希望があれば、可能な限り様々な企画を実行していきたいと思っていますので、どうぞ同窓会事務局にアイデアをお寄せ下さい。

志木高開設60年記念事業の報告

平成20年度は、志木高開設60年の記念すべき年に当たり、以下のような記念事業が行われました。

1．元教諭と現役教職員との懇談会
　11月13日（木）、大舘清次（理科）、高山弘（理科）、三田熙（国語科）、後藤邦吉（保健体育科）、伊東明弘（国語科）、大谷嘉信（保健体育科）、龍田正浩（数学科）の元教諭を迎えて、本校開設60年というテーマで、現役教職員との懇談会を開催した。

2．元教諭による在校生対象の講演会
　12月18日（木）、第105回志木演説会にて、松崎欣一（社会科）、後藤邦吉（保健体育科）、龍田正浩（数学科）の元教諭が、在校生を対象に本校60年の歴史を語った。（志木市民会館ホールにて）

3．本校の「研究紀要」第39号にこの10年間の本校の彙報等を掲載する。

4．新掲示板の設置
　正門の並びに慶應義塾および本校のイベント関係の掲示をするための掲示板を設置し、在学生だけではなく、近隣住民の方々にも知ってもらえるようにした。

5．屋外時計の設置
　屋外時計を陽光舎（第二生徒部室棟）外壁に設置した。

平成20年度慶應志木会　収支報告書（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

単位：円

収入		支出	
適用	金額	適用	金額
前期繰越金	8,537,167	会報費	2,334,714
		会議費	472,220
維持会費	8,420,000	式典費	1,580,000
新入会費	1,710,000	交際費	154,062
物販収入	262,700	通信費	33,460
幹事会会費	165,000	振込費用	12,625
テニス大会会費	10,400	残高証明書発行手数料	1,500
預金利息	6,568	事務費	24,497
		パソコン関連費	789,690
		収穫祭寄付	300,000
		ホームカミングデー費用	71,942
		志木会賞費用	114,735
		テニス大会費用	103,994
		奨学基金へ拠出	851,720
		卒業式寄付	300,000
		卒業生・新入生記念品	498,834
		大会費用	16,756
		会費返金	10,000
収入小計	10,574,668	支出小計	7,670,749
		次期繰越金	11,441,086
合計	19,111,835	合計	19,111,835

預金残高明細（3月末現在）

（銀行）	（種別）	（適用）	（管理）	（残高金額）
りそな	普通	一般	増山	340,789
埼玉りそな	普通	入会金	増山	1,552,693
ゆうちょ	振替	会費口	増山	9,261,200
ゆうちょ	振替	名簿代	増山	0
三井住友	普通	小口	金森	237,852
埼玉りそな	普通	小口	竹内	48,062
りそな	普通	寄付	増山	490
合計				11,441,086

監査報告

慶應志木会会則第18条に基づき、平成20年度（平成20年４月１日～平成21年３月31日）の会計監査を実施いたしました。
その結果、会計処理につきましては適正に処理されていることを此処に承認します。

平成21年５月12日

監事　千葉　宗雄
監事　原田　　薫

■役　員■

名誉会長　下村　　裕（校長）
会　　長　鹿野　元章（16期）
副 会 長　河野　文彦（主事）
　　増山治一郎（17期）　財務担当
　　金子　博志（20期）　情報管理担当
　　中村　弘司（23期）　事業企画担当
　　山﨑　嘉正（26期）　総務担当
監　　事　千葉　宗雄（13期）
　　原田　　薫（15期）
幹事長　阪東　宗文（16期）
幹　　事

事務局長　山崎　嘉正（26期）
事務局幹事　金子　康雄（22期）　会報担当
　　小川　　洋（25期）　事業企画担当
　　山田　純男（26期）　総務担当
　　金森　　悟（27期）　財務担当
　　大澤　宏樹（35期）　事業企画担当
　　川崎　　聡（46期）　会報担当
　　岩崎　　弾（48期）　事業企画担当
　　大久保佐太郎（55期）　総務・会報担当
顧　　問　櫻井英太郎（１期）大谷熙（１期）龍野和久（１期）宮田勝（５期）多田毅（７期）五老輝彦（９期）荒木幸生（10期）品川雅貴（12期）本橋重夫（15期）西村孝一（17期）

期	氏名				
1	藤井　淳	松本　仙太郎			
2	遠山　正秀	惣滑谷　岱司	河邉　勝利		
3	品川　仁	岩崎　勝利	菅野　光男		
4	藤岡　民良	高橋　公郎	伊藤　金次郎	三浦　靖夫	
5	寺嶋　延行	小林　石三	藤井　洵		
6	真野　信裕	松本　福太朗	茂木　光義		
7	熊崎　順次郎	鈴木　正治	渡辺　正		
8	青木　宏至	品川　宗弘	大須賀　均	磯部　和宏	
9	南部　達雄	前田　克巳	佐々木　弘暢		
10	馬場　紘二	斉藤　彰			
11	馬渕　祥宏	鴻田　益孝	森原　孝夫	菅谷　正樹	
12	太刀川　俊男	川久保　達也	岡田　幸次郎	原田　雄介	
13	清水　武寿	椎野　開八郎			
14	小林　好二	簗山　正俊			
15	小笠原　準一	倉田　伸二	深瀬　啓司		
16	川端　清治	工藤　親彦	近藤　隆夫	橋本　幸男	野口　信一
17	荘　敬典	北村　基樹	前嶋　晶廣		
18	伊藤　博行	黒田　豊	徳永　良		
19	中西　廣策	星野　恭一郎	村上　功治	三浦　秀男	
20	中　一弥	杉　雅俊			
21	飯島　敏一	福地　敏之	内山　洋一		
22	櫻井　造雄	三木　哲郎			
23	夏目　雅	梅澤　由起	森田　榮一	三義　英一	
24	赤木　均	島影　幸有	田沼　潔	京本　修	
25	高橋　宣行	島田　徹			
26	船山　剛	小池　雅澄	善木　達明	澤田　尚史	中川　龍士
27	鬼頭　真一郎	永井　利宗			荻原　弘幸（26期）
28	大館　信	望月　一	渕岡　繁		
29	大熊　伸治	鳥羽　克治			
30	岸田　一男	木島　一郎			
31	荻田　健之	福島　聡	布施　浩之	梶原　靖友	内匠屋　健
32	町野　素久	横江　資友	梅田　幸彦	鈴木　厚	
33	小玉　裕	河野　潔			
34	大内　正博	山下　孝	宇賀神　隆	渡辺　英雄	
35	須佐美　文忠	昌谷　健司			
36	笛木　儀久				
37	鍋島　康友	永田　博詳	植島　博之		
38	知久　康成	中里　栄基	金子　隆則		
39	丸山　和紀	田中　浩樹			
40	井上　晴生	税所　篤史			
41	柏木　徹	三田　貴良			
42	安　重煥	小島　圭	御山　義明		
43	藪原　一暁				
44	宮田　真詩				
45	若松　洋雄	小山　一	小川　圭		
46	伊集院　弘和				
47	小寺　俊且	谷　嘉康	森　茂之	西本　祥仁	濱岡　勇介
48	亀山　雄高	黒川　真行	寺西　富広		小林　圭（47期）
49	石川　快	廣江　安彦			
50	髙岡　功	徳田　征之	小林　敬英		
51	石井　強太	森川　渉	浅岡　良彦	治田　和明	
52	毛呂　淳一朗	渡邉　慶太郎			
53	森岡　多門	林　憲			
54	塚本　大夢	中川　雅之			
55	池端　俊太	小泉　貴史			
56	大久保　匠馬	若林　隆晃	横澤　慶太		
57	和田　亮	時田　亜希夫			
58	宮山　明	佐藤　友紀			
59	箱崎　勇人	本多　清礼			

■クラブ幹事■

テニス部　田中　真介（17期）　バスケット部　南雲　保秀（23期）　バレー部　進藤　英典（23期）　野球部　小川　光二（17期）
サッカー部　中村　直人（38期）　卓球部　浅生　潤（23期）　スキー部　渡辺　一仁（51期）

編　集　後　記

さたろうくんが新入社員研修で多忙のため取りまとめの代打です。不得手のため皆様からいただいたせっかくの原稿が生かせなかったのではないかと自己嫌悪しております。ご容赦下さい。
（かねこひ）

志木会のお手伝いをさせていただいて早５年目になりますが，今年無事に就職いたしました。慶應義塾の結束力の堅さは就職してさらに実感を増していますが，皆様のお手伝いをさせていただけることを非常に誇りに思います。
（さたらう）

慶應志木会会報　2009 ●Vol.29

平成21年６月20日発行
編集・発行　慶應志木会（慶應義塾志木高等学校同窓会）
〒353-0004　埼玉県志木市本町4-14-1
発行人　鹿野元章
印刷　(株)精興社
ウェブサイト　http://www.keio-shikikai.jp/
メール　info@keio-shikikai.com